

ポスター①

<タイトル>

テストに使える機能を強化！ INSTANTCOPY Professional V6 のご紹介

<発表者>

富士通株式会社

<概要>

INSTANTCOPY（インスタントコピー）Professional の機能を動画を交えてご紹介します。

テスト作業の効率化やマニュアル作成などにお役だてください。

また4階401-402研修室で開催されているポスターセッションの富士通ブースにお越しいただいた方にノベルティをご用意しております。お気軽にお立ち寄りください。

ポスター②

<タイトル>

ベリサーブのご紹介

<発表者>

中部事業部 中部営業課

<概要>

市場ニーズに応じ、様々な製品の高機能化・高性能化が進む中、これを構成するソフトウェアも複雑化・規模拡大の一途をたどっています。

しかしその一方で、更なるコスト低減、高品質化が求められている昨今、ソフト開発現場では、QCD改善を目指し様々な施策を検討・実施する上で、ソフトウェアへの「第三者検証の重要性」が高まっています。

私どもベリサーブは、各企業様でのQCD改善に寄与すべく、700社以上の企業様での業務実績と、学識経験者を交えた研究活動を通じ、研鑽した弊社検証技術を元に、様々なサービスをご提供致しております。

今回のポスターセッションでは、各企業様での課題をお伺いし、課題解決に向けて、共に考える場にしたいと考えています。

ポスター③

<タイトル>

JSTQB の活動紹介

<発表者>

JSTQB 技術委員

<概要>

本セッションでは、ソフトウェアテストの国際的な資格認定スキームである ISTQB (International Software Testing Qualifications Board) の日本での加盟団体である JSTQB の活動をご紹介します。特にテスト技術者認定試験の内容について、Foundation Level、Advanced Level それぞれの概要および開催予定を紹介します。また、日本語版での新しいシラバスのリリースや、Foundation Level のシラバスの更新についてもご紹介する予定です。

ポスター④

<タイトル>

DeepLearning を用いたテスト自動化

<発表者>

Sky 株式会社 森 知行

<概要>

ソフトウェアの品質試験の現場ではさまざまな課題が発生している。一例として試験担当者の知識差から生じる検証結果の曖昧化や検証ソフトウェアの規模に比例して検証費用の肥大化などが挙げられる。

近年ではこれらの課題に対してテスト自動化導入の動きが活発になってきており、操作を予めコード化したものを実行し、その結果に対して正誤判定を行う方法が一般的に行われている。

しかし、テスト自動化においても課題がある。

操作をコード化する作業に膨大な費用を投じたり、コードのメンテに相当な工数を費やす。また、仕様に明記されていない操作や仕様記載ミスなどにより、意図した動作を行わなかったり、テスト自動化自体が行えない場合がある。

本セッションでは上記課題に対して取り組んだ「DeepLearning を用いた画像認識技術を利用したテスト自動化」実現に向けての成果を発表する。

ポスター⑤

<タイトル>

設計レビュー支援ツール「Lightning Review」による
レビュー記録の改善と効果のご紹介

<発表者>

株式会社デンソークリエイト イオタ推進部

<概要>

大規模化・複雑化するソフトウェアへの要求に応えるため、レビューでの品質確保が“ますます”重要になってきています。

レビュー指摘の記録には Excel を用いることが主流ですが、「記録が取りにくい」「指摘が伝わりにくい」「修正結果の確認が難しく、形式的になりやすい」といった問題より修正ミスや確認モレが発生し品質確保の妨げになっていました。

そこでデンソークリエイトでは設計レビュー支援ツール Lightning Review を開発し、レビュー記録の質を改善することで成果物の品質向上につながると考えました。

本展示では、Lightning Review によってレビューの記録がどう変わるのか、どのような効果が得られるのかを事例を交えてご紹介いたします。

ポスター⑥

<タイトル>

受け入れテスト駆動開発（A-TDD）の適用事例紹介

<発表者>

(株)オージス総研

<概要>

受け入れテスト駆動開発（A-TDD）は、開発に先だって受け入れテストを書き、開発したコードをその受け入れテストで検証するアプローチです。

A-TDD は以下のような特徴を持ちます。

- ・受け入れテストは受け入れ側と開発側が協同で、開発に先だって、全員が読める自然言語で記述する
⇒要求に対する受け入れ側と開発側の理解のギャップを早期に発見できる
- ・繰り返し検証する必要がある重要な受け入れテストは、自動的に実行できるように自動化する
⇒受け入れテスト労力の軽減

今回は実際にプロジェクトに適用してみて、分かったことを中心に発表させていただき、A-TDD と言わずテスト駆動開発を実践されている方々や関心のある方々とざっくばらんに意見交換・情報共有できればと考えています。

ポスター⑦

<タイトル>

組み込み CI W/G 活動紹介

<発表者>

組み込み CI W/G

<概要>

本 W/G は今年の 3 月から立ち上がり、現在は書籍：「システムテスト自動化 標準ガイド」の読み合わせを行っています。

W/G の最初のステップとして、システムテストの自動化に関する認識の統一と、組み込みならではの知見を集めていく目的です。

きっかけは世間のアジャイル開発や CI の動向を見ていく中、組み込み開発にも導入できないかと思いついたことにあります。

組み込み開発ではハードウェアが密接に関わるため様々な課題が考えられます。

現在は組み込み技術者、ツールベンダ、熱い男たちが喧々諤々、技術的な議論をしています。

ポスター発表では、現在の W/G 内での活動内容や、活動を通じて共有した知見や、日々の困り事をご紹介できればと思っています。

当日来ていただいた方に本 W/G に興味を持っていただければたいへんありがたいです。

活動に対するご意見や、W/G への参加もお待ちしております。

ポスター⑧

<タイトル>

組み込みソフトウェアのテストへの CI 導入

<発表者>

ベクター・ジャパン株式会社

<概要>

ベクターテストツールを使用した組み込みソフトウェアにおける CI のコンセプトや実現方法を紹介します。

ベクターテストツールはシステムテストだけではなく、ソフトウェアテストも含めたテストのプロセス全体をサポートしています。

継続的インテグレーション (CI) は、組み込みソフトウェアの分野では Web 分野と比べてあまり一般的ではありませんが、何らかのヒントになれば幸いです。

ポスター⑨

<タイトル>

アジャイル レトロスペクティブ

<発表者>

株式会社オンザロード

<概要>

アジャイルな組織の1つの目標として自律的であることがあります。自律的な組織になるためのプラクティスとしてレトロスペクティブ（ふりかえり）をもちいることが多いです。

本ポスターではアジャイルな組織が実践しているレトロスペクティブのツールや、それらでよく聞く課題や誤解、そして解決方法について発表します。たとえば、レトロスペクティブをやりにくいというものであったり、マンネリ化しているであったり、お通夜みたいな雰囲気になるであったり、もっとうまくやりたいけど思いつかないであったり。。。きっと、みなさんの現場にすぐに活かせるものがあるとおもいます。

ポスター⑩

<タイトル>

テスト設計コンテスト'19

<発表者>

テスト設計コンテスト実行委員

<概要>

2019年もやります！テスト設計コンテスト'19！！

テスト設計コンテストとは、指定のテストベースに対してテスト設計を行い、その優劣を競います。

ソフトウェアテスト技術の向上と促進の機会を提供する場として、JaSST '11 Tokyo より開催しており、一昨年より、従来のテスト設計コンテストをOPENクラスとし、初心者向けクラスとしてU-30クラスを新設しています。

- ・U-30クラス（対象：30歳以下）
- ・OPENクラス（対象：すべて）



テスト設計コンテストについて詳しくは、以下のサイトをご覧ください。

<http://aster.or.jp/business/contest.html>

テスト設計コンテスト

<タイトル>

アジャイルで変わる意識と開発方法

<発表者>

JASA アジャイル研究会

<概要>

JASA アジャイル研究会は組込みソフトウェア開発で抱えている問題点を解決するため、既存のやり方にとらわれず、他の開発で成果をあげているアジャイル開発がヒントになるのではと集まり発足しました。

アジャイルを調べていくうちにアジャイルとは形だけのアジャイルプロセスに従うのではなく「アジャイルな考え方」になっていくことが重要と考えています。

今回のポスターセッションでは「ふりかえりがうまく機能していない」という課題を抱えたチームが自分たちのふりかえりの問題点に着目し、アジャイルの要素を取り入れた開発方法で変わった結果をご紹介します。